

【題名】 令和 6 年能登半島地震の避難所で行った感染対策の検証

公立河北中央病院
看護部 感染管理認定看護師
松本 寛志

【要約】

令和 6 年能登半島震災にて、石川県輪島市（以下、輪島市）で被災者となり 1 月 1 日から 4 日まで避難所で生活し感染対策の活動を行った。後日、この感染対策を当院の感染管理認定看護師（以下、CNIC）と振り返り検証を行った。

感染対策は避難所に到着した際に室内やトイレの汚染が確認されたため早急に開始した。まずは感染対策を共同してもらう人材の確保と避難所の各部屋と避難者数の確認を行った。そして避難所の環境整備と感染対策の周知を行った。私が避難所に入ったばかりのトイレは上下水道が停止しており便器や床が汚染されている状態で放置されていた。トイレの清掃後も排泄者の清掃が不十分だったため定期的にトイレの清掃を行った。

また、水道が使えず手を洗うことができなかったため、避難所内の出入り口と個人のスペース付近に手指消毒用のアルコールを設置し細目に手指消毒ができるようにした。

調理場を使用される方への感染防止対策指導では、調理前のアルコール消毒の徹底と自宅から避難所へ持ち込む食品は未調理の物に限ることとした。

避難所で生活した期間の感染対策によって、救急車の要請や感染者を出すことなく過ごすことができた。先行研究より避難所は物資やインフラが不十分な状況で人々が集まるために衛生環境が悪く、感染症が発生されやすい。多人数の共同生活により感染蔓延リスクが高まり呼吸器感染症と感染性胃腸炎が多く発症すると報告されている。これらを防ぐために、手指衛生のために断水時にはアルコール消毒を設置し、トイレの定期的な清掃や衛生指導を行った。また、食品の取り扱いや衛生管理を徹底し早期喫食を促した。また、避難者の健康観察を定期的を実施し、有症状者の早期発見体制を整えた。この取り組みにより避難所の方の健康が保たれ医療逼迫に微力であるが貢献できたものと考ええる。